

茨木市立 中津小学校 茨木っ子グローイングアップ計画

令和元年10月作成

1

3年間の計画

| | 目標 | 平成29年度(2017年度) | 平成30年度(2018年度) | 平成31年度(2019年度) |
|---------------|-------------------------------|--|---|---|
| 中学校・ロック保幼小中連携 | 連携カリキュラムの活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・連携カリキュラムの実践 ・連携担当者会議の開催 ・「いきいきスクール」の開催 ・学校事務の共同実施 ・3校合同研修の開催 ・合同授業研の開催 ・3校の土・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加 ・教材の交流 ・児童・生徒の交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・連携カリキュラムの検証改善 ・連携担当者会議の開催 ・「いきいきスクール」の開催 ・学校事務の共同実施 ・3校合同研修の開催 ・合同授業研の開催 ・3校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加 ・児童・生徒の交流 ・各校のとりくみの交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・連携カリキュラムの総括 ・連携担当者会議の開催 ・「いきいきスクール」の開催 ・学校事務の共同実施 ・3校合同研修の開催 ・合同授業研の開催 ・3校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加 ・児童・生徒の交流 |
| 確かな学力の育成 | 確かな学力をつけ生きる力を育成する | <ul style="list-style-type: none"> ・グローイングアップ3カ年計画の立案、実践 ・個に応じた指導の推進(学力・支援との連携) ・ステップアップタイムの見直し ・授業ルール掲示物の活用方法の検討 ・外国語活動の先行実施に向けたモジュール授業の研究 ・ICTを活用した授業の実践 ・読書活動や授業研究を通じ、読解力を育む教育の実践 | <ul style="list-style-type: none"> ・グローイングアップの3カ年計画の実践、検証 ・個に応じた指導の実践・検証(学力・支援との連携) ・外国語活動の先行実施によるモジュール授業の実施、検証 ・ICTを活用した授業の実践 ・読書活動や授業研究を通じ、読解力を育む教育の実践 | <ul style="list-style-type: none"> ・グローイングアップ3カ年計画の総括 ・個に応じた指導の実践、拡充(学力・支援との連携) ・外国語活動の完全実施に向けた授業研究、実施(モジュール授業も含む) ・ICTを活用した授業の実践 ・読書活動や授業研究を通じ、読解力を育む教育の実践 |
| 豊かな人間性を育む | 人権教育を通じて、お互いを認め合い、人権を尊重する心を養う | <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたインクルーシブ教育の研究、推進 ・発達段階に応じ、系統立てられた人権学習の実践、検証 ・自尊感情、有用感を高める教育の研究 ・全学年、平和学習を通じて戦争の恐ろしさや悲惨さを学ぶ ・集団づくり研修の実施 ・人権教育の研究推進のための校内研修の実施 ・地域・家庭との連携の推進 ・道徳教育の研究・実践 ・読み聞かせや本に触れる時間を確保し、幅広い考え方や視野を広げる機会を持つ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたインクルーシブ教育の実践、検証 ・発達段階に応じ、系統立てられた人権学習の実践、発展 ・自尊感情、有用感を高める教育の研究、実践、検証 ・全学年、平和学習を通じて戦争の恐ろしさや悲惨さを学ぶ ・集団づくり研修の実施 ・人権教育の研究推進のための校内研修の実施 ・地域・家庭との連携の推進 ・道徳教育の実践と研究・検証 ・読み聞かせや本に触れる時間を確保し、幅広い考え方や視野を広げる機会を持つ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたインクルーシブ教育の修正・拡充 ・発達段階に応じ系統立てられた人権学習の実践、継承、 ・自尊感情、有用感を高める教育の研究、拡充 ・全学年、平和学習を通じて戦争の恐ろしさや悲惨さを学ぶ ・集団づくり研修の実施 ・人権教育の研究推進のための校内研修の実施 ・地域・家庭との連携の推進 ・道徳教育の研究・実践 ・読み聞かせや本に触れる時間を確保し、幅広い考え方や視野を広げる機会を持つ。 |
| 健康体力の増進 | 運動に親しむ心を育てる | <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上プロジェクト研究授業の実施・検証 ・茨木っ子運動の推進 ・年間計画による体育授業の実施・検証 ・体力テストの活用 ・児童による行事の企画運営 ・食育の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上プロジェクト研究授業を基盤とした授業の推進 ・茨木っ子運動の推進 ・年間計画による体育授業の実施・検証 ・体力テストの活用 ・児童による行事の企画運営 ・食育の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上プロジェクト研究授業を基盤とした授業の推進 ・茨木っ子運動の推進 ・年間計画による体育授業の実施・検証 ・体力テストの活用 ・児童による行事の企画運営 ・食育の実施 |
| 支援教育の充実 | | | | |

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|------------|----------------|
| ①話すこと・聞くこと | やや課題が残る結果であった。 |
| ②書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ③読むこと | 概ね良好な結果であった |
| ④言語事項 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|----------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | やや課題が残る結果であった。 |

(無解答率)

やや課題が残る結果であった。

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問……目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む
- ・もっとも正答率の低かった設問……目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。

分析

- ・記述式問題の正答率が低いですが、書くこと読むこと言語事項は概ね良好であった。
- ・話すこと聞くことに、また、自分の意見を明確にして表現することに課題が見られる。発表形式の学習活動の充実をする必要があると考えられる。
- ・無解答率については概ね良好であったが、更に数値を減らす必要があると考えられる。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|-------|-------------|
| ①数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ②量と測定 | 良好な結果であった |
| ③図形 | 概ね良好な結果であった |
| ④数量関係 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もともと正答率の高かった設問・・・棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取る。
- ・もともと正答率の低かった設問・・・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する

分析

- ・量と測定、図形（空間認知）が良い結果となっている。
- ・選択式問題の結果は概ね良好な結果であり、記述式問題の結果は良好であった。
- ・少人数習熟度での基礎的な学習の積み重ねを行っていることと、学習サポーターが機能している効果だと思われる。
- ・無解答率については概ね良好であったが、更に数値を減らす必要があると考えられる。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・平均正答率は、10年の幅で見るとやや上昇しているが、ここ数年減少傾向がみられる。日頃の指導の成果と確認しながらも、検証しながら進めていく必要がある。
- ・正答率が、年によって安定しない。積み重ねが必要な基礎基本の徹底習熟をどの学年でも意識して計画しなければならない。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・低位層は、10年の幅で見ると、減少傾向はみられ、現在取り組んでいる内容は、ボトムアップには効果的であると考えられるが、エンパワー層が多い年度も不定期にあるため、この層を意識した取り組みも必要。
- ・高位層は、全国平均を下回る結果がここ数年みられ、教科別にみても、高位層はやや減少傾向がみられる。高位層を引き上げる取り組みを検討する必要がある。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

- ・学校教育目標「夢とできる喜びを分かち合い、瞳きらめく中津っ子」に設定
- ・学力向上推進目標「確かな学力をつけ、生きる力を育成する」と年間計画の作成
- ・校内研究推進体制づくり
- ・支援を要する児童への支援内容の検討と実施
- ・習熟度別少人数授業実施と個に応じた教育の充実（通級指導の実施や学習サポーター等の活用）
- ・集中して静かに聞く力と集中して取り組む力の育成
- ・書く力を高めるノート作りやノート評価の充実
- ・自分の意見や考えの根拠、実験した結果と考察などを自分の文章でまとめる活動の増加
- ・言語活動を大切にし、定着すべき基礎言語を獲得させる取組みの実施
- ・学力や学習内容定着のため、家庭との連携をさらに深める。家庭学習（宿題）などでの協力
- ・それぞれの学年の基礎基本を明らかにし確実に定着させ、学力低位層を減少させる
- ・教職員の授業力向上（分かりやすく、学びたいと思わせる授業の実施）
- ・学び合い、高め合える集団づくり
- ・もっと学びたい、知りたいと思うような、学習意欲を高める授業づくり
- ・聞き取った話の内容を文章でまとめたり、根拠を明らかにして自分の意見を文章にするなど、記述を意識した授業展開の工夫。
- ・計画を自分で立てて学ぶなどの学習機会の増加

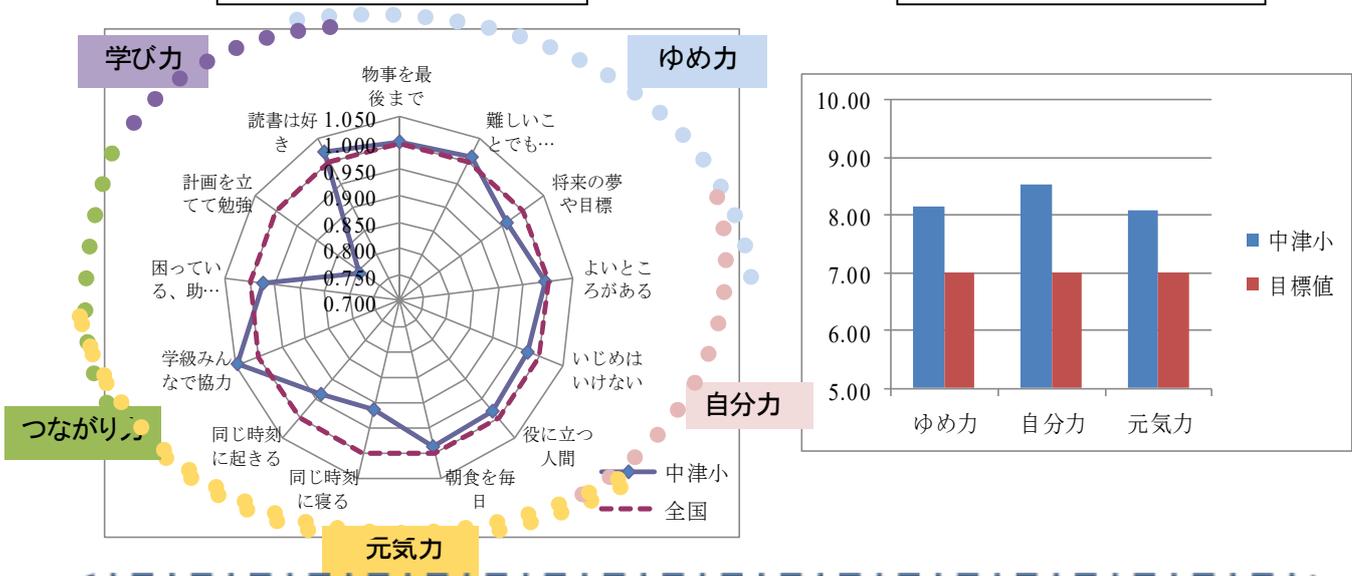
<検証>

- ・全国学力学習状況調査の分析とグローイングアップ3か年計画の修正補完
- ・算数診断テストと漢字テストの実施、分析
- ・学校教育自己診断実施と分析結果の共有
- ・授業アンケートの集計

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比

5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較レーダーチャートは13項目、目標値との比較棒グラフは、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

<ゆめ力>

- ・将来の夢や目標を持っている割合は低い。

<自分力>

- ・自分の良いところについて考える児童の割合は高い。
- ・いじめに対する関心や意識がやや低い

<元気力>

- ・朝食を毎日食べることは、概ねできている。
- ・同時刻に起きたり、同時刻に寝たりという生活リズムは整っている。

<学び力>

- ・計画を立てて自分の生活を組み立てることが苦手である。
- ・読書の好きな児童が多い。

<つながり力>

- ・仲間意識が高い。

取組み

<ゆめ力>

- ・今後も出前授業や外部人材を活用するとともに、日常のきめ細かで丁寧な取組みを続けていく
- ・習熟度別少人数授業を導入していることが、きめ細やかな学習指導と支援につながっている
- ・国語力を高める授業の展開と、言語活動の質の向上を図る取組みの工夫と実施
(学級や学年・学校全体の掲示板等に、国語力を高めるような掲示や、詩等の紹介をする)
- ・算数、国語学習の有用性を知らせ、学習を前向きにとらえる事の大切さに気付かせる
- ・将来への展望を持てるようキャリア教育の充実を図る
- ・保護者やスポーツ選手など、子どもの関心が高い人を招聘し、仕事の話をお聴く機会を多く持つ

<自分力>

- ・いじめ防止の徹底を図るとともに、自分も他者も尊重する取組みを進める
- ・自分を振り返る取組みを設定する。(月目標の振り返りや課題に応じた取組み)
- ・説話だけではなく、心に響くような指導(読み物資料や人権学習内容)を通して、心を育てる
- ・基本的な生活習慣を身に付けるため、家庭との丁寧な連携を行う
- ・きまりを守ることの大切さについて、学校教育全般を通して丁寧な指導を行う
- ・学級懇談会等で、保護者に児童の実態を伝え、家庭が学校とともに子どもを育てるという意識の共通化を図る

<元気力>

- ・生活習慣や運動習慣の大切さを学級指導や家庭科学習で伝えていく
- ・保健だよりや給食だよりで生活習慣の意識付けや家庭への啓発を行う
- ・学校医と連携し生活習慣の向上の取組みを進める
- ・食育の推進
- ・薬物乱用防止教室の開催

<学び力>

- ・「できた」「わかった」と実感できる授業の充実をすすめ、意欲的に学ぶ力を高めていく
- ・保護者と連携し、家庭学習を進める
- ・図書館支援員を活用するなど、本に親しむ取組みを今後もすすめる
- ・『ひろば読み』の取組みを、毎年実施する
- ・家庭学習の手引きの活用

<つながり力>

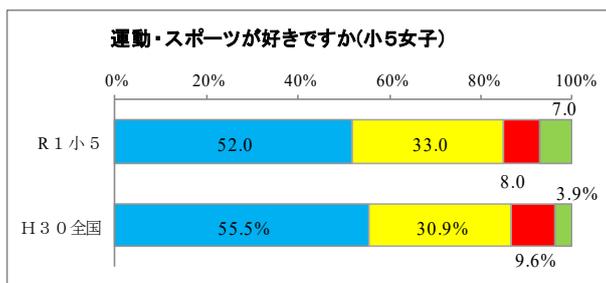
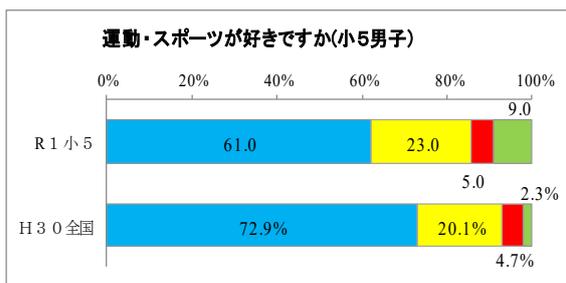
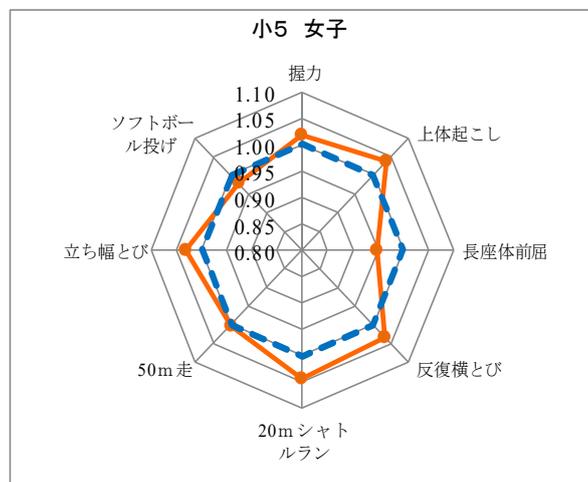
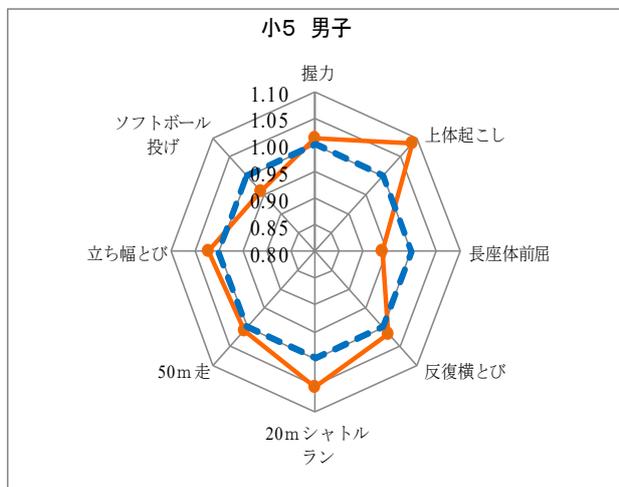
- ・地域の人とつながることの大切さを児童が学ぶために、地域人材ゲストティチャーの活用や地域行事に積極的に参加するよう学校として支援していく
- ・友だちの話をしっかり受け止めて聞くことができる集団づくりをさらに進める
- ・学習(総合等)を通して、人の役に立つことの素晴らしさを感じられるようにしていく
- ・お互いのよさや違いを認め合える仲間づくり、一人ひとりが自信を持てる場づくり、信頼しあえる学級づくりを大切にしながら日常の取組みを続けていく

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子 (小5)

女子 (小5)



■ 好き ■ やや好き ■ ややきらい ■ きらい

分析

- ・男子の上体起こしが優れている。
- ・シャトルランは、男女ともに高い。
- ・長座体前屈とソフトボール投げの記録が低い。
- ・「運動・スポーツが好きですか」という割合が全国平均より低いことから、外に出て遊ぶ機会は少ないのではないかと推察される。

取組み

- ・ソフトボール等ボールを投げる機会を設け、投げ方の指導をする
- ・体育の授業の始めに茨木っ子運動や基本的運動を継続的に取り入れる
- ・「運動する楽しさを味わう事ができる授業」をめざし、系統立てられたカリキュラムを作成する
- ・校内マラソン大会の実施や、発達段階に応じたマラソンカードの活用など、目標をもった持久力を高める活動を進める
- ・教材や教具などの充実を図る
- ・縄跳びジャンピングボードの作成、修繕などを行う
- ・小中連携を通して、中学生による陸上競技指導や水泳指導を実施する
- ・体力テストを4・5・6年で実施し自己診断を行うとともに結果を分析し、体育の授業力向上を図る
- ・学級活動や委員会活動等で運動遊びを奨励し、企画、実施する
- ・外部講師を招聘し、出前授業を行う
- ・子どもの実態を把握し、伸びを感じられるような指導を増やす
- ・体育の授業でのストレッチを取り入れる